

比叡山延暦寺根本中堂は、中堂造りの世界遺産です。根本中堂の中陣から内陣のご本尊薬師瑠璃光如来は同じ目線で拝せられます。見上げる、見下ろす、そういう位置関係からではありません。これは仏凡一如の真理の体現にほかなりません。そして、「明らけく後の仏の 御世までも 光つたへよ 法のともしび」の不滅の法燈が神々しく輝いています。

ブータンの人たちは「一粒の米に宇宙を思い」、仏教を厚く信じておられます。一粒の米粒は「地・水・火・風・空」の働きによって、発芽し、開花し、実を結びます。自然の摂理が働いて、生きとし生けるものの存在があるのです。土、水、日光、空気を人間が造り出すことはできません。私たちはそのことを重く受け止めなければならないのです。

愛知県専門尼僧堂堂長の青山俊董さんは「アメリカの国立公園の父と呼ばれているジョン・ミューアが〈一輪のスミレのために地球がまわり、雨が降り、風が吹く〉といているように、一輪のスミレを咲かせる背景に天地総力をあげてのお働きがある。地上の一切のものがこの天地総力をあげてのお働きを平等にいただいて、それぞれの生命のいとなみがある」と、言っておられます。これも「一粒の米に宇宙を思い」という真理に通じるものです。

良寛禅師は、「あは雪の 中にたちたる 三千大千世界(みちおうち) またその中にあは雪ぞ降る」と詠じられました。「春の雪が降ってくる空を見上げると、やがて大宇宙があらわれてくる。その宇宙をじっと見つめると、中に淡雪が降っているではないか・・・。およそものの尺度など相対的だと説く仏教の宇宙観だ。ケシ粒一つに世界が入るといふ禅問答もあるが」(毎日新聞-「余録」-)。これも仏教の哲理として信じたいものです。

「秋穂高 画竜点睛 飛雲舞う」、これは北アルプス、上高地の河童橋で、山川草木悉皆成仏の教えを思いながら私が詠んだ句です。上高地で山川草木と言えば、穂高連峰、梓川、二輪草、化粧柳を目にうかべます。そして、「峯の色 谷のひびきも 皆ながらわが釈迦牟尼の 声と姿と」という道元禅師の歌を思い、上高地の自然に仏を感じています。

〈山川草木 仏の世界〉 それは実在し、目の前に広がっているのです。

大自然が仏である、というのは、日本の大乘仏教の教義であり、聖地である大自然の導きから学ぶ教えです。

ご指摘の通り、生きていくために必要以上の物を食り、地球環境を脅かしている人類に比べて、草・木・山・川・石などの自然は、まったく足りを知っています。

自分が他に優位になろうとなどせず、他と調和して自分の領分を守り、かつ、その中で多くの生き物を育てています。

その意味では、人よりも仏に違い、欲望の超越と慈悲があるという見方もできます。そして、その大自然の中で、人も生まれて、育まれています。

普段、われわれ人間は、自分たちが地球の王様であるかのような錯覚をして、大自然を見下し、破壊・開発・消費の対象としていますが、見方によっては、それが仏に見える。

これは、自然を開発してきた西洋文明ではなく、自然との調和を重んじる日本文化の生んだ素晴らしい伝統だと思います。そして、地球環境問題が深刻化する21世紀において、その価値は大いに見直されるべきだと思います。

私の瞑想体験では、大自然を仏とみて、人間に乏しいその優れた性質から学ぼうとするとき、自分が、(大自然への愛・感謝を取り戻し)大自然に再融合したという感覚を得ることがあります。

そして、自分は、実際は大自然の支配者などではなく、大自然の一部であって、自分の母なる大自然から生まれてきて、母なる大自然に戻る存在である、と感じます。

最近の歌で言えば、「千の風になって」、という歌もありました。

そして、その時は、大自然側こそが、自分の本体で、自分が「私」と呼んでいるものは、それに属する存在と言った感覚がありました。

人とは、水の中の生まれては消える泡のように、母なる大自然の中に生まれては消えていく一瞬の何か。

これが、人間の世界の自己中心的な世界観ではなく、大自然の中の人間というものをありのままに見た姿ではないか、と思います。

そして、仏教では、仏陀は三宝と言われ、宝とされていますが、自分は、大自然こそが、最高の宝だと感じます。

例えば、早朝に地平線から光り輝く太陽（ご来光）や、透明な夜空にきらめく星々よりも素晴らしいダイヤモンドなどあるでしょうか。

なによりも、この大自然・大地球・大宇宙よりも素晴らしいマイホームなどあるものでしょうか。

大自然は、誰彼のものではなく、すべての人が共有している最高のもの。最高のものであるから、それが神・仏であって、最高のものは、皆のもの。

いや、皆のものというより、皆自体が、その最高のものの一部であり、だから、皆が仏の一部、仏の子。なんと素晴らしいことか。

そういった感覚の中では、自分だけの財物や名誉を求め、ちんけな欲望が消え去っていきます。

こういった感覚は、仏教の教学をしつつ、聖地とか自然の美しい場所で体験しました。今度、機会があれば、ご紹介したいものです。

#### ※参考

大乘仏教には、「一切衆生悉有仏性」という言葉があります。これは、一切の衆生はことごとく仏性（＝仏陀になる可能性）を有しているという意味です。同じように、一切衆生悉皆成仏は、一切の衆生はことごとく皆仏陀に成る、ということ。

そして、日本の大乘仏教ですが、単に衆生＝生き物だけではなく、無生物を含めた大自然全体に、仏性を拡大しました。自然との調和を重視する日本らしい思想ですが、「山川草木悉有仏性」とか、「草木国土悉皆成仏」などと言います。大自然を仏としています。